

かなよみ新聞 第六百六号 名譽新伎之中

西條團洲先生 (さいでうたんしうせんせい) の小傳 (せうでん)

西條氏 (さいでううち) ハ東京の人なり、旧稱 (きゆうしやう) ハ河原崎

(かハラさき) 長十郎、後 (のち) に

権 (ごん) 十郎、紫扇 (しせん) と号 (がう) す、其実 (そのじつ) 歌舞

妓 (かぶき) 俳優 (はいゆう) の長 (ちやう) 七代目

團 (だん) 十郎寿海老人 (じゆかいらうじん) の末子 (ぼっし) にして、

一度 (ひとたび) 狂言座 (きやうげんざ) 河原崎 (かハラさき)

権 (ごん) 之助の養子 (やうし) となり、故 (ゆゑ) あつて実家 (じつ

か) を相続 (さうぞく) し、

九代目市川 (いちかハ) 團十郎と改稱 (かいしよう) し、俳号 (はいが

う) を三升 (さんじやう) とし、

人 (ひと) 呼 (よ) んで團洲 (だんしう) と稱 (しよう) す、天資 (てん

し) 悠然 (いうぜん) 小事 (せうじ) に関 (くわん) せず、

容貌 (かたち) 簞瓢 (たんぺう) の如 (ごと) く、巨眼 (こかん) 光輝 (くわ

くわうき)、但 (たゞ) 見 (み) る珠数 (じゆす) の親玉 (おやだま)

に

似 (に) たり、先年 (せんねん) 猿若街 (ざるわかちやう) に在 (あつ)

て俳僧 (はいそう) 法蓮華庵 (ほうれんげあん) 永機 (えいき) と

交 (まじハ) り、頗 (すこぶ) る俳道 (はいたう) を得 (え) たり、又

(また) 花所隣春翁 (くわしよちかはるおう) に学 (まな) びて、

画 (くわ) を能 (よ) くし、手跡 (じゆせき) も尋常 (じんしやう) の俗

筆 (ぞくひつ) ならず、時 (とき) に

維新 (いしん) の機会 (きくわい) に際 (さい) し、俳優道 (はいゆう

だう) の旧習 (きうしゆ) を一洗 (せん) し、

虚を去 (き) り実 (じつ) を演 (えん) ぜんことに只管 (ひたすら) 意匠

(いしやう) を勞 (らう) じ劇場 (げぢやう)

休業 (きうげふ) の間 (かん) あれば、釣竿 (ちやうかん) を携 (たづ

さ) へて一葉 (いちえふ) に乗 (じよう) じ魚漁 (ぎよりやう)

に托 (たく) して扮旦 (いでたち) の工風 (くふう) に他事 (たじ) なき

事 (こと)、彼 (かの) 呂望 (りよはう) が

直針 (ちよくしん) に於 (おけ) るが如 (ごと) し、茲 (こゝ) に田元帥  
 (でんげんする) 河竹新 (かはたけしん) 七  
 老人 (らうじん)、坐元 (ざもと) 守田 (もりた) 勘弥 (かんや) と計  
 (はか) り、従来 (じゅうらい) 劇場 (げぢやう)  
 道 (だう) の衰頹 (おとろへ) たるを深 (ふか) く嘆 (たん) じ、専 (も  
 っぱ) ら狂言 (きやうげん) の  
 真 (しん) なるに新硯 (しんけん) を研 (ミ) がくより團洲 (たんしう)  
 先生 (せんせい) の  
 伎藝 (ぎげい) 非凡 (ひぼん) なるより之 (これ) を抜擢 (ぼつてき) し  
 て讚伎 (さんぎ)  
 に任 (にん) じ、劇場 (げきぢやう) の大将 (だいしやう) とす、先生  
 (せんせい) 身代 (しんだい) 窮 (きう) して  
 志望 (のぞミ) いよく堅 (かた) く、藝道 (げいだう) の  
 進歩 (しんぽ) も亦 (また) 少 (すく) なからず、  
 明治 (めいぢ) 七年芝 (しば) 新堀坐 (しんぼりざ)  
 の太平記 (たいたいき) にハ、楠公 (なんこう)  
 に扮 (ふん) じて、嗚呼 (あゝ) 感心 (かんしん)  
 楠氏 (なんし) の役 (やく) と見物 (けんぶつ) の  
 口碑 (こうひ) にとゞめ、同九年  
 の夏 (なつ) 中村座 (なかむらざ) において  
 頼氏 (らいし) の日本外史 (にほんぐわいし) 中 (ちう) 治承年間 (ぢじ  
 ようねんかん)  
 平家 (へいけ) の隆盛 (りうせい)、源氏 (げんじ) の落魄 (らくはく)  
 を脚色 (けくしき) に  
 当 (あた) り、先生 (せんせい) 小松 (こまつ) 内府 (ないふ) 重盛 (じ  
 げもり) に扮旦 (いでたち)、  
 喝采 (かつさい) 全国 (ぜんこく) に雷同 (らいどう) し当今 (たうこ  
 ん) 西南 (せいなん) の  
 役 (やく) をもつて河竹翁 (かはたけおう) 新案 (しんあん) の筆端 (ひ  
 ったん) を  
 開 (ひら) く、先生 (せんせい) 陸軍大将 (りくぐんたいしやう) の任  
 (にん) を模擬 (もぎ) するに、  
 今 (いま) に於 (おい) て鹿児島 (かごしま) の事情 (じじやう) を見  
 (ミ) るが如 (ごと) く ▼ ▲

▼▲先生（せんせい）の人氣（じんき）刻一刻（こくいつこく）より隆（たか）  
 （さか）んに  
 愛顧（ひいき）日（ひ）一日よりふかく、開場（かいぢやう）ならざるも  
 見物（けんぶつ）霧島山（きりしまやま）をしのぎ、土間（どま）、棧敷（さじき）は  
 従軍（じうぐん）の雲霞（うんか）に異（こと）ならず、左翼（さよく）  
 に  
 岸野（ぎしの）武上（たけがみ）あり、右翼（うよく）に蓑原（みののは  
 ら）の  
 その他（た）あり、大砲（たいはう）の当（あた）りはすさず、  
 連戦（れんせん）の大勝利（たいしょうり）は客歳（かくさい）賊徒（ぞく  
 くと）の敗軍（はいぐん）に  
 ひとしからず、是（これ）將（はた）諸軍（しよぐん）（ヲット）惣座中  
 （そうざちう）  
 の奮発（ふんぱつ）によるといへども、先生（せんせい）の一（い）に  
 あり、故（ゆゑ）にこの小傳（せうてん）をもつて名譽（めいよ）新伎  
 （しんき）の  
 簡端（かんたん）に記（き）す、イヨ鹿兒（かご）でハない）  
 島原（しまはら）の親玉（おやだま）く